



神戸国際大学
キリスト教センター通信

第134号
2025年7月15日

「船員に感謝」

神戸国際大学
キリスト教センター

加藤 俊彦



全世界の聖公会の教会では、毎年7月に海の主日（Sea Sunday）と称して、世界各地で働いている船員たちと、その船員たちのために港で働くMission to Seafarers（MTS）という国際キリスト教団体を覚えて祈り、募金を献げています。MTSは1856年に英国聖公会で設立された宣教団体で、Flying Angelの愛称のもと、世界の200以上の港を中心に運営され、ロンドンを本部とし、日本には東京、横浜、神戸にその拠点があります。以下はMTSの公式ホームページ文章の要約です。

- MTSの活動は世界各地の港に寄港する船員たちに港で様々なサービスを提供するというものです。例えば、
1. 入港した船を訪れて、その地域の情報を船員たちに提供し、船員たちの悩みや要望を聞き、カウンセリングを行っています。
 2. 家族と長い間離れている船員たちのために、国際電話がかけられるよう手配し、船員センターではWi-Fiサービスを提供しています。
 3. 病気や怪我で入院中の船員や、その家族への見舞いと支援を行っています。

私達は「船員」と聞いても、普段ほとんど意識したことがないと思いますが今一度思いを巡らしてみてください。

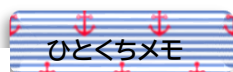
- ・私達が何かを買ったり使ったり身につけたり食べたりするとき、それらがどのようにして手元に届いているかを。
- ・私達が生活する上での必需品を含む物資のほとんどは、海上輸送でやってきている事実を。
- ・海に囲まれた資源の少ない日本は海上輸送による輸出入に99.7%依存していることを。
- ・その海上輸送のために船で働く船員たちがいることを。

もし世界から船員たちがいなくなってしまうたら、またたくまに物流は滞り、必要な物資は届かず、私たちの生活は成り立たなくなり、生きていくことさえ危ぶまれます。船員たちは、私たちの暮らしに直結し、必要なものを運んでくれる、とても重要な役割を担ってくれています。

大海原を航行するという事は、常に命の危険と隣り合わせです。海上では嵐や悪天候に直面し、転覆、座礁することがあり、作業中には事故や火災に遭うこともあります。海賊の襲撃に遭遇することや戦闘区域で攻撃され犠牲になることもあります。そして、毎年、多くの死者が出ているのも事実です。

一般に船員の平均的な契約期間は最長9カ月とされています。その間、様々な国籍の船員たちが、言語、習慣、文化の異なる中、限られた船内の空間で生活し、様々な問題やストレスを抱えながら、厳しい労働に従事しています。好きな人に会いに行くことも、食べたいものを食べることもできません。寄港地で上陸できても自由時間は短く、家族と連絡できる機会もあまり与えられていないため、船員たちが感じる孤独や閉塞感は、私たちの想像をはるかに超えるものです。

私たちが今日も一日生活することができるのは、決して当たり前のことではなく、たくさんの船員たちに支えられ成り立っています。そのことをもっと覚え、関心を寄せる必要があり、船員たちに感謝する心を持ちたいと思います。



9/20に行われる主教授手式には、臨席するすべての主教がハ代理事長を囲み、その頭の上に手を置きます。顎を引いて耐えても、その重圧はかなりのものです。主教たちは普段赤紫のシャツを着ています。神戸教区は中国・四国の10県（芦屋市・西宮市・尼崎市を除く）をその区域とし、28教会と3伝道所があり、教区主教はその管轄区の羊飼いとしての重責を担い、また主教会のメンバーとしての働きもあります。